

平成22年6月28日

岐阜大学大学院医学系研究科
病原体 制御学
教授 江崎孝行

下記の通り試験体の抗菌検証を報告致します。

抗菌パネル評価（ヨウ素樹脂混入除菌板）

使用菌株

黄色ブドウ球菌 *Staphylococcus aureus* GTC1186

緑膿菌 *Pseudomonas aeruginosa* GTC503

大腸菌 *Escherihia coli* GTC503

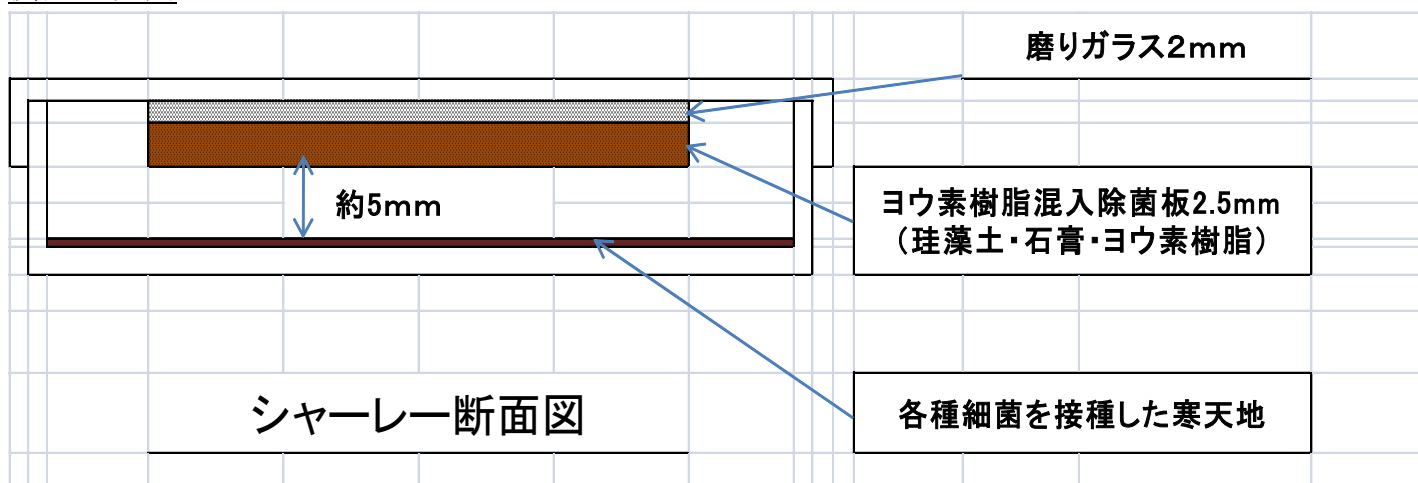
鳥型結核菌 *Mycobacterium avium* GTC603

測定方法

上記4菌種(105cfu/ml)を角型 HI 観点培地に塗布、シャーレの蓋の裏側に両面テープで抗菌パネルを貼り付け、蓋をして24時間培養した。

鳥型結核菌は7H11円形シャーレに塗布し抗菌パネルを半分の大きさに切断し、シャーレの蓋の裏側に両面テープで抗菌パネルを貼り付け、蓋をして5日培養した。

測定方法図



結果

黄色ブドウ球菌・緑膿菌・大腸菌では抗菌パネルの大きさの発育阻止帯が24時間後に観察された。

鳥型結核菌ではパネルの大きさより6ミリ大きい発育阻止帯が形成された。

結論

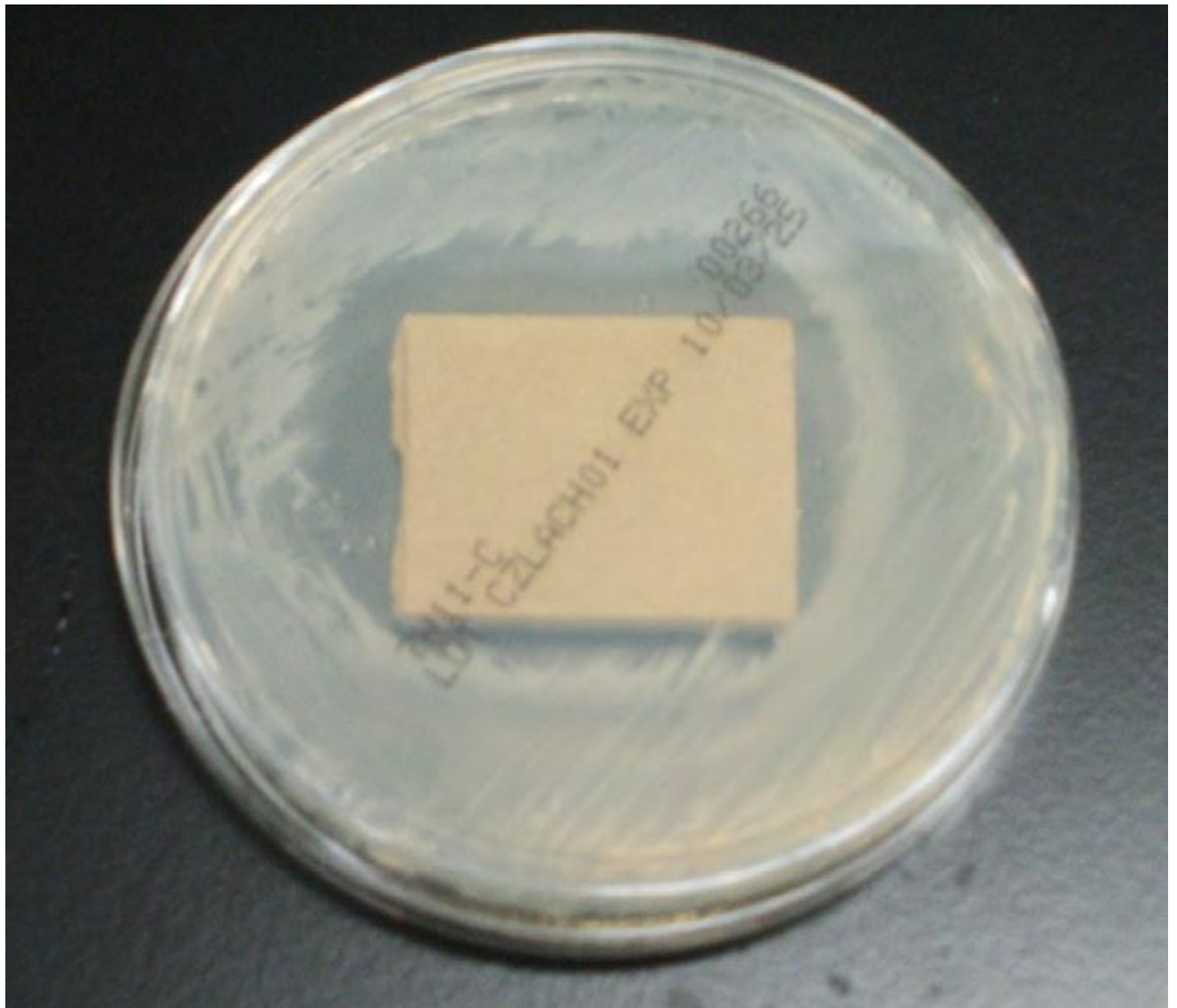
抗菌パネルは院内感染等を起こす代表的な細菌に対して空隙での抗菌作用が認められた。特に発育に1週間から数週間かかる鳥型結核菌への抑制効果が強かった。これは鳥型結核菌の発育が遅いため、抗菌パネルから出る抗菌剤（ヨード）の影響をより強く受けると推察された。（抗菌試験体写真参照）

試験体抗菌結果映像

鳥型結核菌

(Mycobacterium avium

GTC603

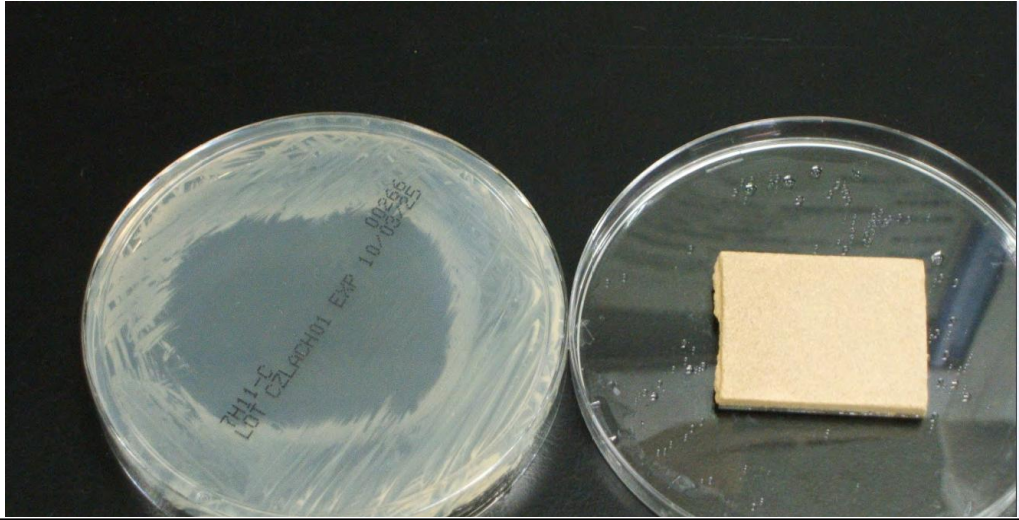


鳥型結核菌

(Mycobacterium avium)

GTC603

写真



緑膿菌

Pseudomonas aeruginosa

GTC508

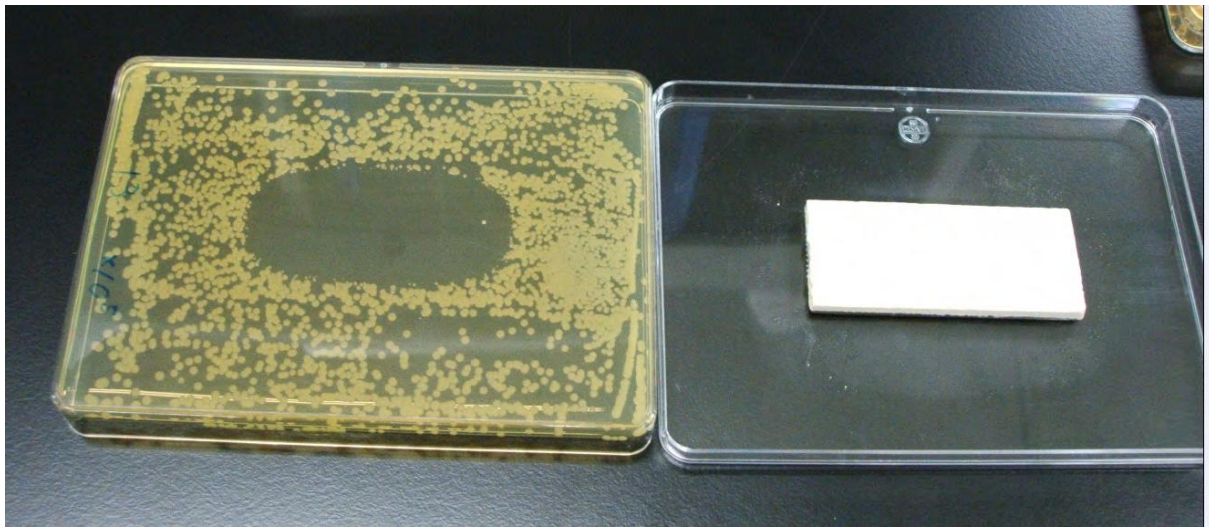


GT 大腸菌

Escherichia coli

GTC503

写真



黄色ブドウ球菌MRSA株

GTC1186

